

2022-10-20 第81回全国産業安全衛生大会 in 福岡

製造業安全対策官民協議会 特別セッション：パネルディスカッション
「我が国の労働環境の変化から読み解く今後の労働安全衛生
～経営トップの役割、これからの安全対策の知恵～」

我が国の労働安全衛生の 今後の動向について

向殿政男（むかいどの まさお）
製造業安全対策官民協議会 アドバイザー
（公財）鉄道総合技術研究所 会長
明治大学 顧問 名誉教授

労働安全衛生は、世界的な 転換期にある

- 労働安全衛生は、どこに向かうのか？
- 安全⇒健康⇒ウェルビーイング
- ビジョン・ゼロ活動（ゼロ災からヒントを得て、トップが先導する、安全・健康・ウェルビーイングを目標とする活動）



VISION ZERO FOR ALL

A Multi-Stakeholder Approach to Safety,
Health and Well-being at Work

これからの我が国の 労働安全衛生の在り方は

- 製造業安全対策官民協議会で分かったことは、
 - ・ 労働安全の水準は、団体によりレベル差があるが、神戸宣言に基づき、他の業界に学びながらそれぞれ水準を上げる努力が見えてきた
 - ・ 機械安全が普及して機械設備に起因する重大災害が減りつつある業界がある一方で、作業者の行動に基づく災害が増えてきた（第三次産業の拡大）
- 今後の我が国の労働安全衛生の方向は、安全・健康、・ウェルビーイングというビジョン・ゼロの活動に向かう時期
- トップが主導をして、経営トップ、管理者、作業者が一体となって調和して労働安全精鋭を新しい方向へ進展させていくチャンスである。
- その時、ICTの技術の安全への応用が重要（Safety2.0, 協調安全）

安全・健康・ウェルビーイング

- 安全の基本は、**技術**にあり（本質的安全設計＋ICTを用いた安全技術 Safety2.0＋協調安全）
- 働く人のウェルビーイング（幸福）の源泉は、**安全**にあり
- 一般市民のウェルビーイングの源泉は、**健康**にあり
- 企業の価値向上の源泉は、**働く人のウェルビーイング**にあり
- 社会のウェルビーイングの実現には、企業の持続的な社会的貢献が不可欠
- 経営トップの責任ある積極的な関与なしには、これらの流れは実現しない

それぞれの企業の安全衛生レベルに応じた新しい方向へのチャレンジを期待する

1. 機械設備の本質的安全化を徹底すること（機械安全、安全技術）
2. ICTの安全確保への応用（技術による協調安全：Safety 2.0の採用、安全と生産性の両立、人間能力の活用、環境情報の活用）
3. 組織（経営者）、技術（設計・技術者）、人間（作業者）の協調した安全への取り組み（組織による協調安全、人間による協調安全）
4. **働く人のウェルビーイング**を目指した労働安全衛生活動
5. 働く人のウェルビーイングから、顧客の、企業の、そして社会のウェルビーイングに貢献（**企業トップの役割**）